

# 緑陰

りよくいん

太陽の日差しのもと、よく繁った木の陰のこと。日差しが強くなると、緑陰の涼しさは気持ちが良いもの。ねぎ畑では、たまに蛙がねぎの陰で休んでいます。



汗ばむ日も増えて、畑でも初夏の訪れを感じています。新しい仲間も加わり、日々の収穫業務で体を慣らしつつ、夏に向けての体力づくりも。梅雨の時期の入るまで、この比較的穏やかな春の季節を肌で感じつつ、夏に備えます。

## 今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

### 冬から春の移り変わりの中で生きた春葱たち

昨年の10月頃に定植を行った、亀岡市・京都市のねぎになります。4月に引き続き、5月も「春あんじょう」という品種のねぎとなります。京都の冬を畑で長期間過ごして春を迎え、ねぎの生育適温は20℃前後とされている中、春の日差しを浴びて年内で1番育ちやすい気候でストレスなくスクスクと育った春葱です。冬の期間に蓄えた甘さや葉の厚さも兼ね備えつつ、勢いよくしなやかに伸びた緑の葉。四季の良さを感じつつ、ご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

## 夏の広大なねぎ畑を望みながら

3月は比較的気温が低かったことで、ねぎ坊主のあがりも比較的にゆっくりでしたが、4月に入ってから初夏を思わせるような気温の日もあり、一気にねぎ坊主の出始める圃場も増えてきました。4月から、京都府内にある4つ産地（京都市・亀岡市・美山町・京丹後市）で畝立て・定植作業が始まりました。今月定植を行ったねぎは、夏の7月頃に出荷してお届けできる予定で育てて管理していきます。夏のメイン産地は、涼しい風が吹いたり夜温が下がる山間地域など一つの圃場面積も広大です。山の自然の空気を感じ、広々とした圃場に広がるねぎ畑を想像しながら、基礎となる土づくりを大切に、日々作業を進めています。



ふかふかにした土の上にマルチを張り、定植準備完了!

今年は3名の方が農産課の新たな仲間となりました。暑い日も寒い日もありますが、共に協力し合いながら乗り越えていって欲しいなと思います。また、この季節のうちに、他の部署の仲間も研修として畑作業に入ります。現場を知ることが大事!



とある日の農人日記。

美山で苗の管理に携わり、苗の管理の難しさがよくわかります。苗の顔色、土の濁き具合など、育苗ハウスに行くたびに、苗の成長の期待の楽しさと、苗が枯れていないかの心配とで、苗の顔色を見えています。(美山・鶴子)

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます  
ことねぎだより

NO.204

2024年5月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP



こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。